

玉敷神

川

遠13
984
3



遠門
第984
卷子

生死しせい 轉てん 玉散たまちり 袖中卷そでちゆうまき

東里山人著

第三回

八相成道はつさうじやうだうのりりりりと其終そのはつちを論ろんぶぶのの説話せいかわ

山田屋やまのや若山わかしん行助ぎやうすけ書林しよりん

昨日きのうの今日けふの昔むかしありたり。下しも足あしづづふ消きえる行頭ぎやうづらの聖しやうや。眉まゆの霜しも白しろきをを見みままぶ夜よを更かる。未み来らいへちままきあひひのの撞つきあひひ。生死しせい流轉りゅうてんの闇やみの夜よに塵ちん勞ろう妄わう相しやう心しんの夢ゆめを樂たのしみ。むむ省しやうの佛土ぶつど子こ光明くわうみやうの天明てんめいああるるをを知しららささ身みを

浅あしき。爰お桐ヶ谷の利徳屋萬助が娘おとくは
聖の下多敷。萬福屋長兵衛が。船玉五郎と。赤繩の
姻を結びてあり。決膠の契。王。金石の盟ひ。連理の
柯比翼の鳥も。譬言る不足ざる。中々ぞあり。おとくは
長兵衛夫婦も。大まか飲びて。おとくは。実しく舅姑
小給する。実の両親事する。孝娘。あざけりも
懈怠する。あはれ。家内和合。と。睦あしき。足
如く。世間の人。鑑者とあり。おとくは。爰に。萬助夫婦は。

前下一

娘おとくは。身の善惡を。奈何と案じ。おとくは。外子
長兵衛夫婦が。氣も入り。玉五郎とも。睦あし。た。おとくは
聞て。今。安堵あり。斯く。無く。思ひ立。御旧跡。頃
拜の。願を。空しく。せま。と。或日。長兵衛夫婦。あは
相談。おとくは。我家名を。契地。立入る。却。船福女
が。身の仇。あり。と。詳に。おとくは。逆の。所為。あり。と。物語。おとくは
長兵衛夫婦も。強くと。れを。止め。が。と。娘おとくは。身の
うへ。か。る。も。案じ。おとくは。た。と。玉五郎が。不縁。あり。

とも。一度契長兵衛が娘を貰ひつけたれば。渠も嘆き
かけまゝも。天地の神に祈言ひし。最頼母敷言。倍も萬
助。夫婦も力をひく。とまじり。教代召仕する。奴僕ホ
それく。母の片付べき。わいの。恵とをほして隙をす。あゝ家
屋鋪を賣拂あり。ひはぎ。あお。冷風寺へ金子二百両を
奉納す。二十四輩御旧跡。煩拜の途中。おろく。若く
又変のる。あぶ。鎌倉。肩々。谷。冷風寺の。一檀那。不相違
これあ。間其所。あわ。尊手。當は。し。され。早速。當

表へ急飛脚をとり。おん。せ。と。され。亦同宗門の
寺院。多く。便り。尊手。卿。食。應。た。の。ひ。と。つ。る。往。来。の
手形。を。ら。ひ。請。き。の。お。換。取。今。日。の。安。白。き。脚。半。や
甲。掛。の。ひ。も。吉。日。の。途。出。と。て。壘。の。も。あ。れ。萬。福。屋。か。へ
い。ま。ま。ど。ひ。よ。ま。ま。娘。の。か。へ。ん。ま。ま。ど。病。ら。ぬ
あ。い。く。あ。い。く。飯。く。も。う。ま。せ。母。さ。ぬ。持。病。の。癩。災。ぬ
か。う。不。温。石。お。も。ち。あ。れ。と。ま。う。ま。せ。母。其
か。も。ま。ら。ん。病。ら。ぬ。あ。い。く。息。女。で。居。く。と。ま。れ。勝。力。も

あつてこれ後バ父さぬをばりい母が。人さぬ一生のせう
能く業報人兩個の子を儲るがら。兄さまもあつた
通つと人の口端ふかろやま。うがあつて人の鎌倉の
卿へ立飲られもせぬ其方あも遣れぬるどお必らむあひ
了心間あつと夢あもやうとてつらなト母が笑見のむき
土産英方あつた萬助が。玉五郎も相對^ら娘が身
う便^りもあつて世中の指の獨^り立^ち枝折捨^つともな
あつて。替^りあつた者もあつた仕合せ。不便とあひひのつてあつた

情もかケもあつた世々の大息^つ聞^くて玉五郎も
拱ぬき^ま國態^{こくたい}望^{のぞ}んで貰^{もら}ひつてくる女房^{にやうぼう}あつて見^こ
捨^まげき心底^{しんぞ}あつた。必^{かなら}む苦勞^{くるわう}あつた。二十四^{よそ}非車^{ひぐるま}の御^ご旧^{きう}跡^{せき}
心もあつた。須^す拜^{らい}あつた。女^にも早^{はや}く御^ご帰^き國^{こく}を。使^{つか}使^{つか}
とも待^{まち}まされ。最^{さい}真^ま実^{じつ}よそへつた。カ^カ子^こ奉^{ほう}けあつた
とびる。今^{いま}百^{ひゃく}あつた。いれん。品^{しん}あつた。婿^{むこ}あつた。人の
産^うかあつた。おとへ。沙^さ汰^たあつた。ふあつた。あつた。國^{くに}と
あつた。いれん。あつた。カ^カイ^イあつた。あつた。氣^きあつた。あつた。

屋敷を賣拂ふと。きひ残りのびを旗人より大毒中
持く不要心をおもひ。そとくきん入へ進上りて。さ
どの御沙汰し。にがす志とちり。ちり玉五郎が懐中へ
押込。それより長兵衛夫婦。よとまごひほ。娘おとくが母の
久を呉くも。馮心をおもひ。馬助夫婦のきん。難倉君卿
を發足あし。再説話。難倉七里濱の漢師。阿弥
乎といふ者あり。一個の筋ありて。是と阿弥太郎と名付
今年十七。あぞあり。母ハ先の手をもち。今只

前下五

親子二人。漢師を作業として。今日を過す。おとくは
阿弥太郎ハ日頃吾家の仕事。難義。おとくは度々
父子諫めり。世ハ作業の種。有つ中。おとくを生け。お
りの命を殺す。渡世とまらる。おとくは酔ひの罪。道
を。おとくは。年。開。おとくは。折る骨折る。業ハ止。おとく
能高賣換。おとくは。浮世。寝覚。おとくは。暮。おとくは。細。お
か。おとくは。魚の命。惜。おとくは。跳躍。おとくは。水の便。おとくは。失。おとくは
后ハ力。おとくは。只尾。鱈。を。動。おとくは。只。音。水。を。求。め。んと。口。を。

開き。又ふき兒果ハ身を震せし。是も死せざるを。秋心ある其風情。魚と人と天地もまたなる。違ひの有つこと。命を授けし。亦智とあるまじし。是非をせむと云の。阿弥平更不待ん。殺す。十年近く。決瀆ハ接て。漁師を渡世とあり。数万足余の魚の命ハ殺つれども。是もその罪の。酹するを聞きて。死せし。魚の世におく。目出度お用ひらるる。是魚の祐ひあり。細ふかしく。死を安んぜん。何ぞ高位の人乃

て。子ふふ。戦國ハ生まれ。武士の命を捨て。未代。その。名を輝じ。子孫ハ富貴を。残せられ。同理ハ。止る心。底も。阿弥太郎。詮方あり。父とも。漁舟。打兼腰。細ハ。携せ。魚を。瀬の方。漕よ。父の。言。一。細。逆バ。み。立頭。南无。三。魚。加減。揚。奈。何。魚。有

で。縞の賤布せせんふコレハト驚おどろきどう揚あげられハ中ちゆう入にあはれ全ぜん
十両じゅうりょう誰人たれひとか落おせし。賤布せせんふも苔こけの滑ならうわ。年とし経へ
鮮あまふえくれば。阿あ珍しん太た郎らうハ當とう惑ごあ。まき尋たづねし。機はた
りも。あや夕日ゆふひの磯いそ子こ鳥とり傾かたく影かげとひらとひあ。毎ま僧そうが
突つく。吾わが家やを飯い里りく。父ちち今日けふもま。から
あ。毎日まいにちそんふるちや下あ腹はらがひらど。朝あから食けを喰くれ
まふ。働はたらけ。細こを干ひくま。ら。會あ所ところへ行いく。今日けふの仕し切き
を。聞きく来こひ。大おほ愚おろ鈍ちんの大おほ獸じゅう子こり。阿あ知ちとあや。ま。

出来でき後ごから。あ。換かをま。せ。ト。ま。でも得と心こころく
く。何なんと。あ。い。ま。あ。ま。い。何なんと。あ。
小言こごを吐はちや。か。ト。と。夜よ細こあ。も。阿あ房ぼう面めんめ
ト。自じ在ざい不ふ釣てうせし。院いん元げんや。え。の。中ちゆうから。五ご合が德とく利りを引ひき
出で。筒つつ茶ちや碗わんは。盃ついでで。輕かろの塩しほ辛からを。嘆なげあ。ら。二に三さんを。い
あ。今日けふの仕し切きハ。チ。ツ。ト。よ。く。あ。い。ま。い。何なんと。あ。
を。予よこ。ま。を。ま。ら。て。今日けふも。魚いと。つ。ち。や。一いつ足あしも。取とり。か
其その代しろり。ふ。能よく。あ。い。ま。い。何なんと。あ。是これと。り。あ。日ひ頃ころら。商あき

賣換して。えませトワも得んはし。元子ハは(是)と
 漢師が止らねんト。ひあさる人仕方は。辞
 ちがら。毎おやこエゴコレをさせ。金の這へと契成布が
 細まじりくあがり中。り人の落したの。中らば
 昔が潜て居るを。中へ二年や三年の。りである
 くと思ふと。天帝さぬから御授あされて。むされか
 りの。ぞぞ契合をも品贖やして。漢師ハ止くむら
 トおや父とら中く。思ひ付る能りのを。おあて来

えあるも。よく説話の聞て居る。むぞりか
 たりハ後入ト。おもむき。あつた。二のあつた。十両
 〇ヤイ十まの有まの。父あつくあから。むらぐり通
 漢師ハ止くあまお。先カ一が年が瀾ちや。骨お
 商賣。おまそを。放まら。功德ハ後入。いあ
 生れりの命を殺して。後主のさぬ。父その氣
 あこれ。死んで母さん。も。尊思。嬉し
 後入。父くえん。音が。最ト。老て。子ハ。隨へといふ

からのあれがえんを若うつて。十友の令とてあれが。あんの骨の
折て。漢師あやうごい。か寺ののあ借て。八百屋商賣で
も始るやうがえんご氣楽どや。四どぞとんあふりあでも
あてりさうませ。四。最。サ。一。サ。早く夜食でも
食めて湯あでも。又て来かよの。時。今日とて来奥ハ
り。海へ放し。こと。活飯るゆでも後くら。あれを賣り
仕ま。と。羽立日かうの。あ。と。其。あ。あ。止。仕
ま。か。や。下。会。所。の。仕。切。を。聞。も。が。ら。道。々。も。皆。な

打。買。と。漢。師。仲。間。除。と。貫。ふ。と。来。か。う。と。と。あ。り。あ。
立。る。跡。あ。獨。り。阿。弥。太。郎。日。頃。の。願。ひ。成。就。せ。と。
心。嬉。し。く。と。ふ。今。日。の。亡。母。の。称。月。命。日。あ。高。つ。て。傳。る。金
を。得。る。ゆ。も。不。測。の。一。つ。と。佛。檀。お。燈。明。挑。て。伏。拜。と
母。の。位。牌。お。お。ひ。ら。ひ。日。頃。あ。ま。も。嫌。ど。や。と。云。い。あ
と。漢。師。を。翌。日。か。ら。父。さ。あ。も。止。て。仕。ま。か。と。夕。ぐ。ま。の。鐘
あ。心。も。つ。と。と。嫌。あ。家。業。も。今。日。限。り。于。た。る。細。を
取。入。と。夜。食。も。獨。り。あ。よ。び。く。と。喰。と。卧。床。も。体。々



舟
 たゞの
 火の
 たそ
 ぐれて
 ちく
 子も
 九陽



七里が濱の
 漁師
 向弥太郎
 海中子
 貨を得る

斯く阿弥平ハ十兩の金を懐中し吾家を立出しが
素より強欲熾盛の心なればつゞつと思ふや。今其
十兩の金をもちて。藏屋敷へ行百石の米を買て。一
拍子おくれが直ふ二十兩ある亦二百石買て。運
ぶれば四十兩おくれもあつて強う。コイツアううする
おでも。鶴が岡の富の札買ふようハ早子おくれと
會所の仕切も。そつとつと。藏屋敷へ赴き。十兩の
金を以て。百石の米を買へが。追つて直ぐ引さぐりて。

前下土

吾子ハ十兩の金も。空しく人の化員とあり。雅が阿弥平
も。吾子のよき面目おくれ。ゆゑの秘隠して。漢も
ゆゑ。親子徳とも半月をうり。遊び暮し。一日を過る
所。誰のつとあつて。今般阿弥平が。途探し員と十兩余
の金を採まると。街の風評ハ阿弥平を身ハ心あつて。其
実のことあり。吾天より授けし金あり。諸も情あき。計
りおと。暫く。涙と咽び。が。たもち心と。さう。さう。ア
是れ。吾誤とあり。道ある。金を得て。幸ひとあり。

父の家業を遮止る。不孝の人の不孝あり。契う人の
吾心のせむぐせむ。働らまゝ一人の親を糧さん。何やどの
る。有べきごと。今ものる。聊噫氣あも出さば。是る
阿弥太郎。人の漢。魚をその日。の相場を以て。女が
買請。これ。微斗の利分をうけ。市中を振賣。呼ひ
歩行。阿弥太郎。魚の直段安し。皆人。いど
倍採。買求。り。契う。人の。債。け。を。得。く。人の。債。子
父を養ひ。孝心の程。を。健志あり。其頃。鎌倉の甲

前下土

あ。魚。維。契。と。あ。う。り。の。を。あ。ぐ。あ。と。呼。び。も。契
阿弥太郎。買求。る。を。求。り。んと。て。い。ひ。ま。り。る。さ。う。い。父
阿弥平。漢師。を。止。り。よ。却。く。好。酒。も。心。保。り。香。體。の
隙。で。樂。る。了。れ。ば。い。つ。も。隣。り。る。家。の。寡。婦。心。を。撫。で。て
朝夕。懷。暴。言。話。あ。い。か。け。ら。う。お。用。事。い。り。と。あ。り。老。い。と
あ。く。若。き。と。あ。く。契。道。小。至。り。い。心。も。愚。い。あ。る。り。め。ら
る。あ。い。の。小。保。り。誑。欺。され。く。阿弥太郎。火。水。と。ぬ。て
襦。袢。と。ぬ。元。錢。を。皆。か。の。勢。子。持。ま。り。斯。も。あ

らむ。阿弥太郎ハ父ハ不自由ふじゆうさせしむ。日毎ひごとふ怠り
あり。奥おくを肴ゆまひて賣う歩ある行ゆくハ。自然しぜんと得とく意い先さき延のく
か。雪ゆきの下したあり。萬福屋長兵衛方まんぷくやちやうべゑかたあり。阿弥
太郎あまたろうが。奥おくより外ぐわいハ買かひざるや。ふりまらる。ハ。今日けふハ
よろしうござらまらう。鱈たらハ鱈たら。鮓ずハ鮓ず。生なま貝かいでござら
まら。若わ且かつ那なめんぞ。能あたませ。国くにハ能あた貝かいどのニ。杯は
盃づきく。ゆが。ハ。これハ有あ難がたござらまら。モ。なんま。ハ
鱈たらを御ご覽らん見みしませ。子こ持もちでござら。佳よ味みござらまら。子こ
前下三

持もちと。耳みみより。者もの火ひ付つるや。ふ料理りやうりて。貫つらむ。ハ。これハ有あ
が。ふ。ござら。まら。上うへの。盤ばん代だいの。上うへあり。町まち亭ていハ。割わり立た。火ひ皿びんハ。入いて
奥おくへ。捧たぐ。ハ。残ざんハ。舗ぽら。取とり。ま。せ。ハ。あ。り。が。た。ま。ら
ござら。まら。と。又また世よの。番ばん次じら。残ざんを。受うけ。と。う。ハ。亦また明日あしたと。荷か
を。肩かたに。走はり。引ひき。と。彼か利り德とく屋やの。放はな蕩たう。と。ま
子こ。檻か樓ろう。と。容ゆるむ。と。萬福屋まんぷくやの。舗ぽへ。腰こしを。と。け。る
三。ハ。ヤ。イ。契ちぎを。食たべ。マ。ア。何なにも。から。這こ来きが。と。ヤ。イ。ハ。氣き違ちがひ
め。早はやく。歩あり。ま。ろ。福ふく。コ。シ。サ。其その中ちゆうに。阿あら。と。ち。後ごハ。家か。三さん。コ。イ

つ。の。然。く。晒。落。る。奴。ど。ろ。糞。土。移。入。其。方。が。腰。を。こ。け。る。と。見。
世。が。穢。まる。く。福。ま。り。静。ふ。お。も。せ。入。お。ら。や。其。の。内。の。若。
且。那。は。整。と。用。が。有。て。来。こ。の。夕。宿。お。在。あ。ら。遭。せ。と。り。せ。入。
[義] こ。ら。や。あ。う。も。は。氣。お。お。後。へ。入。や。い。せ。く。来。あ。ぶ。れ。
ト。の。小。強。情。者。ぞ。[義] 首。へ。繩。を。付。く。引。づ。り。お。せ。[義] 何。も。云。
こ。ら。後。引。捕。中。と。打。鄭。ト。立。子。福。舖。へ。上。つ。て。大。安。座。と。れ。
お。ら。の。昔。を。誰。ぞ。と。思。や。が。る。其。の。内。の。玉。五。郎。あ。や。お。兄。イ。
ま。ぬ。ぞ。用。が。有。て。来。の。ハ。外。を。ア。後。兄。身。の。由。身。よ。合。を。

前下十四

十。兩。借。り。不。来。と。不。諾。ト。ぬ。ら。あ。や。妹。の。お。徳。を。離。縁。ト。
連。く。お。早。く。愛。へ。玉。五。郎。で。も。お。と。く。ぐ。い。お。出。お。や。が。と。ト。大。
音。声。て。菊。旬。立。る。お。[義] の。若。の。若。も。は。と。ま。き。く。福。女。が。も。を。[義]
強。く。[義] コ。サ。ま。り。お。ん。穢。狂。を。い。ぬ。ぞ。お。あ。り。へ。来。あ。せ。入。ト。
表。の。か。え。り。引。出。せ。福。コ。し。表。へ。引。中。と。何。ま。る。[義] ハ。テ。何。も。か。も。
こ。ら。ち。が。吞。込。で。あ。り。お。ま。ら。ら。お。あ。あ。方。へ。か。出。お。せ。入。[義] ち。だ。と。入。
ト。お。や。く。と。お。を。お。り。[義] モ。お。お。あ。さ。ん。も。幼。齒。の。お。う。と。お。や。ア。お。ら。
お。の。お。ま。り。と。お。お。い。[義] や。せん。と。お。お。お。の。お。兄。イ。え。ん。の。ト。の。い。ひ。あ。さ。る。ト。夫。強。和。

晒ひは来きおまりつつちちままりりとと。外ぐわい聞もんのの恐おそひひととららののもも。

福ふくおおままりりとと。兵へいややのの何なにももいいままりりとと。

福ふくおおままりりとと。舖たなのの衆しゆがが。

福ふくおおままりりとと。居いららままりりとと。

福ふくおおままりりとと。是これでで。

福ふくおおままりりとと。再また三さんのの。

福ふくおおままりりとと。後のちのの。

福ふくおおままりりとと。自おのららのの。

福ふくおおままりりとと。誰たれとと。

福ふくおおままりりとと。面おもて難がた。

福ふくおおままりりとと。貴き丈ぢやうのの。

福ふくおおままりりとと。端はなのの。

苦勞くろうふとらるるマ後うしろ動うごもされ後うしろのうらら亦また世よ話はなしの
 中なもあらうられど親おやの目めがよよし外ほか便べんのあひ昔むかし倚よりがよよし由よし不便べんと
 口くちのせせも後うしろのヨヨ外ほか便べんのあひ昔むかし倚よりがよよし由よし不便べんと
 思おもしは情なさけがよよし又またの氣いきの強つよさ。世よの氣いきの思おも
 慮をも。耻はづけしううしろままトトううががキキ上上恨うらめし。又またのあひ
 行ゆ状じやうががんんのの妹いもうとと。又また程ほどままふふああひひトトのの一ひと間まの内うち
 ろ。長なが兵へい衛ゑがが目めをを眼まなこ腕うでをを組くみおおととぐぐ推おしままううととううをを俵わた
 ぞぞ傍そばりりるる。是これより長なが兵へい衛ゑがが討うひひやや。おおととくくをを暫しばししば奉ほうとと不ふ出し

近ま所ぢへへのの惣そう堂どうのの兄あにあるる。離り縁えん一ひととと親おや方かたへへ引ひ渡わせせ
 ととままのの觸ふれれははよよしやよし福ふく女むすめもも他ほか人ひとの内うちへへ便べんるる。日ひ理りはは。ささまま
 ままににおお徳とくがが氣きもも安やす泰たい。福ふく女むすめがが念ねんももままれれ。渠みち奴やつもも何なに所ところへへ戻かへて
 仕しままああるる。又また下した月つきりりああるる。月つきの間ま太た美みああららななまま。ととはは場ばの
 苦く道みちままるるやよし夫おつと婦むすめ相あ法ほうああららなな。おおととくくがが嘆なげききここららうう
 ぞぞとと聞きてておおととくくのの暫しばししばもも玉たま五ご郎らうふふををああららなな。恨うらめめももああらら
 悲かなししななれれどど。今いまののああららなな中なかへへ身みをを伏ふせせ。ああららななもも艱げん苦くななれればば。ささまま
 ああららなな。兄あにがが出で入いをを遮さんとと。玉たま五ご郎らうふふののああららななとと言い述のとと

奉_レム_レの_レり_レを_レ望_レと_レれ_レ玉_レ立_レ郎_レも_レ詮_レ方_レあ_レり_レ夫_レ婦_レお_レ法_レの
 入_レや_レ。扇_レる_レ谷_レあ_レる_レ岩_レ永_レ左_レ衛_レ門_レの_レ。天_レ御_レ殿_レも_レ出_レ分_レを
 も_レ能_レ御_レ側_レ奉_レ公_レの_レも_レ有_レよ_レ。是_レハ_レ只_レ今_レま_レど_レ勤_レ仕_レら_レき_レ
 女_レ中_レの_レ病_レ氣_レあ_レて_レ飯_レ宿_レ一_レ以_レ全_レ快_レま_レで_レの_レ代_レり_レ人_レあ_レり_レと_レ媒_レま_レを_レ託_レ
 老_レあ_レる_レれ_レ。お_レと_レも_レよ_レ兒_レ祐_レひ_レの_レ口_レあ_レり_レと_レ。早_レ速_レ目_レ見_レの_レ首_レ尾_レ
 さ_レあ_レや_レ。兩_レ親_レあ_レび_レ玉_レ立_レ郎_レ。暫_レ一_レの_レよ_レあ_レを_レと_レい_レひ_レて
 是_レハ_レ岩_レ永_レの_レ屋_レ敷_レへ_レや_レと_レう_レを_レ出_レす_レ。是_レを_レ夫_レ婦_レの_レ別_レ
 此_レ后_レも_レぞ_レお_レり_レひ_レあ_レら_レま_レす_レ。

若山
 山田屋平助

